

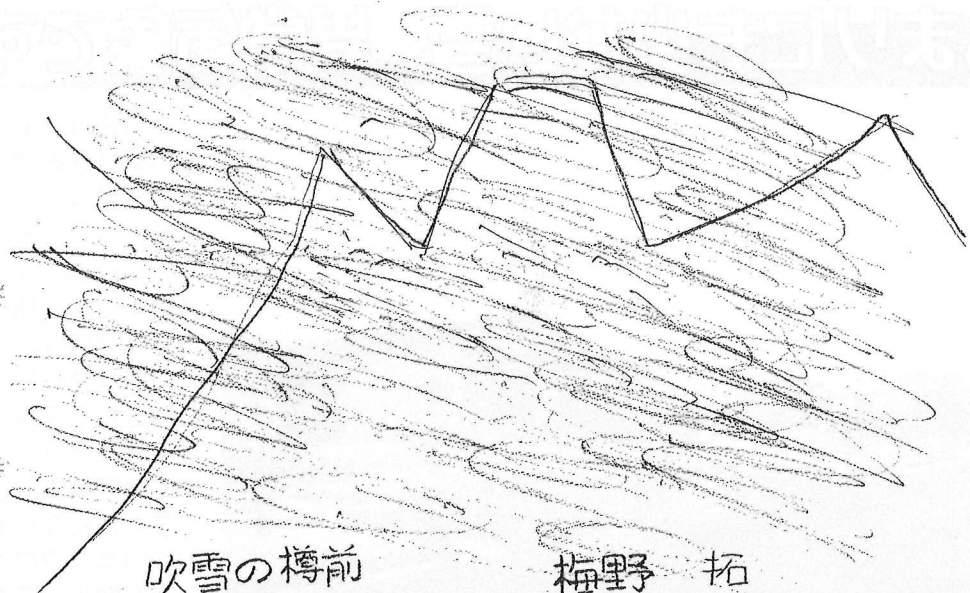
昭和48年1月13日第三種郵便認可
HSK通巻515号
発行日/2015年2月10日(毎月10日発行)
編集人/白老町手をつなぐ育成会 佐藤春光
北海道白老郡白老町字萩野 310-110
TEL (0144) 83-3537

HSK

会報/221
発行人/北海道障害者団体定期刊行物協会 (HSK)
定価/1部100円(会費に含む)

2015. 2月号

ほほえみ



吹雪の樽前

梅野 拓

白老町手をつなぐ育成会

後援会員の皆さんへお願い

体調が思わしくない中、後援会員の E さんが会費を届けて下さいました。『残された時を命と向き合って送っていきます』というメッセージを添えて届けて下さいました。長い間、自分で制作した染め作品を新年会に提供して下さいました。

私たちがここまで来ることができたのは、E さんはじめ社会福祉法人ホープを支援して下さるたくさんの方の後援会員の皆さんがいたからです。その善意が今の私たちを創りあげて下さったのです。そして、その広がりが隣の町登別市に新しい作業所を創るまでになったのです。心より感謝申し上げます。

そこで、後援会員の皆さんにお願いです。会費の納入が負担に感じるようになってきても会費の納入は気になさらないで下さい。私たちが会報を毎月届けるのは、元気な信号を送り続ける事が私たちにできるお返しだと思っているからです。会報は私たちが元気で暮らしている証なのです。この会報を見て少しでも元気が出て下さればと思っているのです。

私たちが、小規模作業所フロンティアを創ると決めたとき、毎月1000通の会報を発行し、元気な信号を全国に届けることを目標の一つにしました。その時の発行部数は1000通にも満たなかったと思います。この間の積み重ねが1200通の発行になりました。

後援会員の皆さんが会報を読んで下さり、私たちを見守って下さる事が私たちには一番の応援なのです。みんなに見守られているからこそ歩き続けることができるのです。

あまりにも少ない雪、異常気象です



2月8日(日)は、夜の9時を過ぎてても外の気温はプラスの3度でした。それが一夜明けるとマイナスの10度。積雪も正月はゼロcm、1月に何日かは降りましたがそれも2月の暖気で溶け今は写真の様にほぼ積雪ゼロcmです。こんなにも雪のない冬はフロンティアを開業してから10年ですが1度もありませんでした。苫小牧や登別は例年並みに雪が降ってい

るのに、白老は去年の冬から今まで雪かきがゼロなのです。こんなに暖冬が続いたら冷夏が心配になってきます。そんな事を書いてさらに1日たって10日になったら、外は真っ白になりました。

北海道歌旅座大盛況でした



昨年より会員制を基本にして始めた『文化を通して育ち合う会』の取り組みですが、1月31日の歌旅座「新参物語」は年度内の取り組みでしたので、会員は無料でした。蔵は200名ぐらいしか入場できませんので、町内にポスターを貼っただけで、券売りもせず過ぎましたが、インターネットで知った方

や新聞で知った方が50名以上チケットを求めていらして下さいました。

当日、会場には30分以上前に楽しみにしているお客さんが訪れジュンコさんの人気の高さと、白老にも歌旅座が定着してきているという実感が持てました。ともかくチケット販売の苦勞をせずに当日を迎えることができたのは、会員制をとったおかげです。



ピケティ現象

フランス、パリ経済学校のトマ・ピケティ教授が1月29日に東京を訪れ、4日間滞在しました。その間、講演や記者会見などに引っ張りだこだったそうです。

著書「21世紀の資本」は、現状を放置すれば、富める者はますます富み、貧富の差は広がると分析し、世界規模で富裕層に課税すべきだと説いているそうです。

日本でもワーキングプアと言われ、働けども働けども暮らしが楽にならない層が増えてきています。石川啄木や小林多喜二の時代はとうに終わったはずなのに現代人の多くが共感できるのは悲しい話です。

「21世紀の資本」は分厚い経済の専門書ですが、世界で約150万部売れたそうです。まさに貧困もグローバル化しているのです。

日本では、円安・株高などにより大企業や富裕層が恩恵を受けました。法人税の減税もするそうです。一方、年金生活者や生活保護者は収入が減り、物価の上昇も生活を圧迫しています。税金のあり方を消費税ではなく、累進課税に切りかえさないと、富の分配の偏りはどんどん広がっていきそうです。

ふろんていあ♡メール

Frontier

就労支援施設
フロンティア♡MAIL

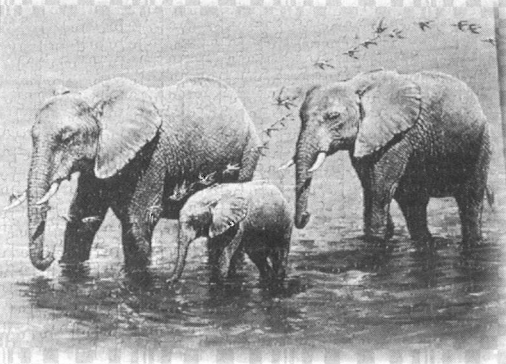
2015年2月号

〒059-0922
白老町萩野310-110
TEL・FAX0144-83-3537

ほのぼの荘の謎… ? ?

先日、ほのぼの荘の仲間が2年近く少しずつ挑戦してきた500ピースあるゾウのジグソーパズルが完成しました。入居者のみんなが、入れ替わり立ち替わり色彩が似通ったピースばかりで苦労しながら、時には世話人さんも加わりながら…が最後の最後に来て2ピース足りない。探しても探しても残りのピースが見つかりません。って思っていたら数日後、あーら不思議足りないピースがはまっていたのです。入居者は、「誰がはめてくれたのだろう？」と不思議がりました。

まあ、いーじゃないの、「誰が、誰が」と責任追求ばかりのご時世にちょっとした不思議な謎があってもと思うのでした。

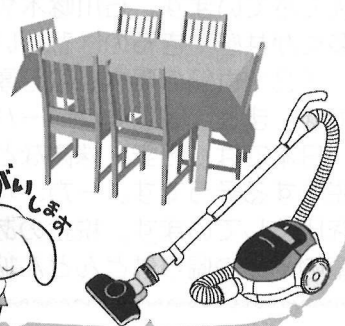


もうすぐ引っ越しシーズン

(不要になった食卓テーブル、イス、家庭用掃除機などありませんか?)

ほのぼの荘は昨年、開設したホームそよ風と合わせて、現在19人の入居者が暮らしています。人数が増えたため食卓テーブルやイスなどが不足してきています。また、ビジネスホテルをリフォームしたほのぼの荘では、毎日廊下や食堂など広い範囲を掃除機がけしているので掃除機の故障がよくあります。地域の方で引っ越しシーズンに不要になっていただける使用可能な食卓テーブル、イス、家庭用掃除機などございましたらご一報ください。

◎お問合せ先：ほのぼの荘
0144-83-9000 (担当：山田)



盛り上がった4団体新年会！！

1月17日（土）に白老町コミュニティーセンターで白老町手をつなぐ育成会、白老地区ことばを育てる親の会、白老町母子通園センター「エミナ」、社会福祉法人ホープ4団体が主催する新年会が開かれました。今年は、いままでの3団体に加え社会福祉法人ホープが正式に主催団体に加わり、フロンティアやほのぼの荘の仲間もたくさん参加しました。

スライドを使った主催団体の活動紹介、マミーズバンドのノリノリパフォーマンスに豪華賞品を賭けた絶対に負けられない戦い（ビンゴ大会）が繰り広げられ楽しい時間を過ごしました。4団体に関係する家族、当事者、職員に日頃からお世話になっている地域の方々など200人近い人たちが集まり盛大な新年会となりました。



フロンティア登別の今後の日程

いよいよフロンティア登別の完成も近づいてきました。2月24日に消防の検査とオーナー検査です。2月28日には内池建設さんから建物の引き渡しを受けます。そこからフロンティア登別は社会福祉法人ホープの管理下に入ることになります。翌日の3月1日(日)には、通所施設設立準備会の最後の会議を開くことになっています。

思い起こせば、平成24年6月23日に登別市の障がい者団体と関係者に呼びかけて第1回通所施設設立準備会を開いてから2年半でフロンティア登別の完成となったのです。何の具体的目安があった訳でもありません。あったのは、登別の親たちの地元に作業所が欲しいという願いと、社会福祉法人ホープの手をつないで一緒に歩こうという想いが重なったことでした。そしてその重なりに登別の障がい者団体や支援者・理解者の輪が広がった結果でした。

さしたる財産のない団体と個人が、総額1億円の事業に取り組み完成させることができたのです。みんなの熱い想いを、あきらめずに進めていけば、想いは通じる事もあるのです。社会福祉法人ホープだから、フロンティアだからできたという見方も有るかも知れません。しかし、2年半前は単なる願望であったのです。世の中にはあきらめないで貫けば実現できる想いもあるのです。たくさんの善意があつまればできることは沢山あるのです。

さて、2月24日はフロンティア登別の新職員が集まっての第1回職員会議が開かれます。3月からは新職員が登別の事業所に毎日出勤して開設の準備を始めます。4月1日から通所開始です。4月6日は開所式を行う予定です。環境整備にしばらく時間がかかります。仕事が落ち着くのも時間がかかりそうです。利用者が集まるのにも時間がかかるでしょう。1年間は忙しいフロンティア登別になりそうです。

皆様ご支援よろしくお祈いします。



【 フロンティア登別のスタッフ予定者です 】



施設長	山田 大樹
施設長代理	高田 正紀
事務 課長	山中 道博
サービス	
管理責任者	山田 大樹
作業支援	
責任者	志賀 敬二
生活支援	
責任者	河上 良枝
栄養士	古内 孝子

支援員 相良 綾子、高田 正紀、山中 道博

来日時、討論や講演に引っ張りだこ 公正な社会をーピケティ氏熱弁



トマ・ピケティさん

資本主義が格差社会を招くことをデータで実証した世界的ベストセラー「21世紀の資本」の著者で、フランスの経済学者のトマ・ピケティさんが来日した。43歳の俊英だ。2月1日まで4日間の滞在中に記者会見や公開討論を精力的にこなし、公正な社会の実現を目指す熱意を印象付けた。

富と権力 富裕層に集中

「先進国を中心に格差が注目されているのは、経済が低成長だから。全ての人の所得や資産が伸びていけば、格差は問題視されない」。300人を超える報道陣を集めた日本記者クラブ主催の会見でピケティさんは

民主主義脅かす格差の世襲



本文だけで600ページを超える専門書が巻き起こしたブームをこう読み解いた。
低成長社会では所得が伸びず、過去に蓄積された資産の力が増すと指摘。一部の富裕層に発言力や影響力などの権力が集中し、社会の隅々まで不正が浸透すると懸念し「極端な格差は民主主義を脅かすと語った」。

公開討論会で先進各国の格差拡大を論じるトマ・ピケティさん(右)
＝東京都渋谷区の日仏会館

者に着目したのが新しい」。日本の格差論の第一人者で同志社大特別客員教授の橋本俊昭さんは、日仏会館主催の公開討論会でこう評価した。

成長の鍵握る 教育機会

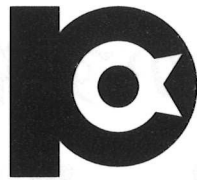
「公的資産の民営化や金融の規制緩和が進み、巨額の投資ができる億万長者の富が急速に増している」と応じたピケティさん。所得よりも資産の格差が顕著な欧州や日本の現状を踏まえ「先進国は世襲社会に回帰しつつあり、この傾向は今後も強まる」と予測。「でも格差拡大は政策で制約できる」と持論を展開した。

教育や労働、企業統治など多彩な格差抑制度を列挙する中で「一番スマートで文明的」と評したのが、資産が大きいほど重税となる累進課税だ。「固定資産税はあるのに金融資産に課税しない現代の税制は、資産といえは土地家屋しかなかった時代の旧弊」として、刷新を提唱する。

日本の現状については慎重な物言いに終始したが、税率が一律な消費税の増税は格差拡大を助長すると一貫して批判。東京大での講義では、少子高齢化の影響で高齢者に偏在する資産への課税を強化し、資産形成が見込めない若年層の救済に充てる必要を訴えた。司会を務めた東大教授の石田英敬さんは「これから不平等を経験し、社会の公正や正義を考える若者にこそ重要な研究だ」。

優秀な大学の学生が富裕層の子弟に独占されている米国の教育格差に触れたピケティさんは「21世紀の経済成長の鍵は平等な教育アクセスだ」と強調した。

「富裕な東大生へのメッセージは？」との質問に「貧富にかかわらず社会に貢献しよう。民主主義社会の市民は、より良い世界の実現に向け最善を尽くす必要がある」と熱弁を振るった。



HSK ほほえみ

昭和48年1月13日 第三種郵便物認可

発行日 2015年2月10日発行(毎月10日発行)

HSK通巻番号515号

編集人/北海道白老郡白老町字萩野310-110

白老町手をつなぐ育成会 佐藤 春光

TEL 0144-83-3537

会報/221号

発行人/北海道障害者団体定期刊行物協会(HSK)

定価/1部100円(会費に含む)